

令和3年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名 三木市立三木中学校

1 学校教育目標

よりよく生きようとする意思や能力を培う生徒の育成

2 本年度の重点目標

- ・自他の命や人権を大切にす教育の推進
- ・確かな人権感覚を持ち、生徒理解に努める教員の育成
- ・規律と安らぎがあり、安全で安心して過ごせる学校づくり
- ・新型コロナウイルス感染予防および教育活動への影響を最小限にとどめるための取組の推進

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程 学習指導	・授業時数の確保 ・基礎学力の定着 ・生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善	・週30時間の実施 ・少人数指導、同室複数指導の実施 ・教育機器の活用 ・朝の読書、モジュール学習の実施 ・「自主学習ノート」の取り組み	B	・少人数授業や同室複数授業を通したきめ細やかな指導のさらなる充実 ・ICT機器を有効に活用した授業の展開 ・生徒も教師も「楽しい」と感じる授業づくり
道徳・人権教育	・道徳教育の充実 ・人権教育の推進 ・自尊感情や自己有用感の高揚	・ローテーション道徳の実施 ・人権作文、ポスター制作や人権作文発表会の取組 ・外部講師による人権教育の推進	B	・「特別の教科」道徳に係る評価方法の研修 ・体験活動やボランティア活動を通じての所属感、自尊感情の醸成
保健・安全	・新型コロナウイルス感染予防対策の推進 ・保健・安全意識の向上 ・防災教育の充実	・新型コロナウイルス感染予防のための環境整備と手洗いや換気などの予防対策の徹底 ・交通ルール・マナーの徹底 ・下校指導、交通立ち番(PTAと連携)の実施 ・薬物乱用防止講演会の実施 ・避難訓練、1.17追悼集会の実施	B	・交通ルール、マナーの徹底 ・下校指導、交通立ち番の実施 ・外部講師による専門的な立場からの指導 ・生活に直結する保健安全に関する情報提供 ・災害発生時に対する防災訓練の実施
生徒指導	・生徒の内面理解に基づく生徒指導 ・いじめや不登校の早期発見、早期対応 ・関係機関との連携	・生活アンケート(いじめの早期発見等)の実施 ・カウンセリングウィークの実施 ・生徒指導不登校委員会による情報の共有 ・関係機関(子育て支援課、子ども家庭センター、警察等)との連携 ・情報モラル、薬物乱用防止教室の実施	B	・家庭環境を含んだ生徒理解の深化 ・発達障害、性的マイノリティ等に関する研修の充実 ・不登校対策に向け、新たな組織づくり ・家庭や地域、専門機関と連携した生徒への支援
進路指導	・学年に応じた進路指導 ・キャリア教育の充実	・進路説明会の実施 ・進路相談の充実 ・私学合同説明会への参加促進 ・トライやる・ウィークの実施(2日間)	B	・系統的な進路指導計画の見直し ・体験活動と連動したキャリアノートの活用促進 ・体験活動の充実

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・保護者、生徒、教職員への学校評価アンケート、そして全教科、全領域での指導・観察に基づいた自己評価の方法は適切である。
 ・長期化するコロナ禍での学校経営で課題山積の様子。昨年度の経験を活かし、さらに工夫を凝らされていることと推察する。
 ・学校関係者評価委員会も開催できない状況であるため、判断材料が少なく、十分な評価はできないが、体育大会の配信等、一歩前進出来ている。
 ・今年度は、学校評価アンケートに基づいた自己評価を評価せざるを得ないが、昨年度に比べ、厳しい評価になっており、山積している課題への対応状況から判断すると、適切であると思われる。
 ・オープンスクールのオンライン配信や授業の動画をアップしてもらえると、より保護者の方々の願いをかなえるのに役立つと思われる。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
・評価Bは適切である。 ・タブレットの活用方法、参観日のオンライン配信、チョークの色使い等、保護者からの様々な要望への対応も可能な限り、実現できるよう願う。
・評価Bは適切である。 ・「学校評価アンケート」の「道徳・人権教育の充実」の評価結果からの判断ではあるが、生徒、保護者ともに肯定的な評価が為されているので、引き続きの指導を願う。
・評価Bは適切である。 ・「学校評価アンケート」の関連項目すべてにおいて、生徒、保護者ともに肯定的な評価が為されているが、自由記述にあるような要望への対応についても今後の検討を願う。 ・新型コロナウイルスへの対応がまだまだ不十分であると思われる保護者の方々がおられる。今後、まだまだ続いていくと思われるコロナ禍の中での教育をより安全に行なうためにも今後より一層きめ細やかな対策を期待したい。
・評価Bは適切である。 ・「学校評価アンケート」の「生徒理解」「生徒指導」の評価結果からの判断ではあるが、生徒、保護者ともにB評価が多く、「改善方策」に示されているような対応、特に「家庭環境を含んだ生徒理解の深化」は大切である。家庭、関係機関との連携を密に推進願う。 ・目まぐるしく変化する社会、コロナ禍でのストレス等々の状況下で、長期欠席生徒を減少させるためにも、色々な専門機関と連携をとりながら進めていってほしい。
・評価Bは適切である。 ・昨年度できなかった「トライやる・ウィーク」を2日間ではあったが体験できたことは評価したい。来年度の状況はまだ分からないが、コロナ禍が続いていたとしても更なる工夫を凝らし、2年生の生徒にとって有意義な活動になるよう努めていただきたい。

特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部と管理職の意見交換会の開催 学級経営の充実 生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会による学校行事の運営 生徒会委員会活動の充実(管理職との座談会実施) ノー部活デー完全実施によるメリハリある部活動運営 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会による学校づくりへの主体的な取組 生徒会を中心にした主体的な行事運営 学校行事を通じた達成感の醸成 進んで練習に参加しようとする部活動運営
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する生徒の理解と支援の充実 家庭、関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の特性を共通理解し効果的な支援に向けた研修を実施 個別の支援計画の作成 関係機関との連携の推進 特別支援教育指導補助員の配置 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する生徒の共通理解 個人カルテの作成と共有 特別支援教育に係る専門性の向上 特別支援教育指導補助員と連携した支援
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導力の向上 生徒に寄り添った生徒指導の推進 意欲的な研修への参加促進 	<ul style="list-style-type: none"> 不断の授業改善による授業力向上 SC、SSWによる校内研修の実施 教育センター等の研修講座への積極的な参加 オンライン研修の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のための情報提供 講師を招聘した校内研修の充実 資質向上に向けた意識の向上 OJTによる若手教師の育成、教育技術の継承
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり 保護者、地域との連携による生徒の健全育成 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの積極的更新による情報発信 学級、学年、学校通信の発行 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報発信を推進(ホームページや通信) 地域、家庭からの情報収集 オープンスクールや学校行事の開催方法の工夫 中央公民館行事の運営への生徒の参加
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> 施設、設備の充実 美化活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化設備や損傷箇所の修繕 PTA予算による備品等の購入 統合に伴う歩道等の安全確保のための整備 教師と生徒と同行の清掃活動 生徒会活動による施設整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> 市教委と連携した施設設備への対応(老朽化設備や損傷箇所の迅速な修繕) 美化活動やボランティア活動の推進

<ul style="list-style-type: none"> 評価Bは適切である。 「学校評価アンケート」の関連項目での生徒の評価は何とかAとなっている。しかし学校行事については比較的好評価であり、コロナ禍での学校の対応に理解を示している。保護者の立場からの要望も理解できるが、この状況での最善な方策ではなかったか。他市からの情報収集にも努め、改善策を検討いただきたい。何の心配もなく、のびのびと活動できる日常が戻ることを願うばかりである。
<ul style="list-style-type: none"> 評価Bは適切である。 特別な支援を要する生徒は、年々増加しているように思われる。校内での組織体制の充実はもちろんのこと、教職員が共通理解をはかることにより、より一層きめ細やかな指導をお願いしたい。 小中の連携はもとより、中高の連携も更に深め、特別支援を必要とする生徒たちがより良い学校生活を送れるような体制づくりをお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 評価Bは適切である。 評価項目に「生徒に寄り添った生徒指導の充実」とある。学校評価アンケートの「生徒理解」の項目では生徒、保護者ともにB評価が多い。昨今、研修項目が多岐に亘り大変であると思うが、この点での研修の充実も願う。
<ul style="list-style-type: none"> 評価Bは適切である。 コロナ禍で困難な中、いろいろな工夫をしながら連携に努められていることに感謝する。「学校評価アンケート」の「家庭でのしつけ」の項目が生徒、保護者ともにB評価であり、保護者は学校任せにならず、最低限の基本的な生活習慣は家庭で身に付けさせるべきであると考え。地域の教育力の回復も切望する。
<ul style="list-style-type: none"> 評価Bは適切である。 老朽化施設や損傷箇所の修繕については、財政難等の問題もあるが、生徒の安全確保を最優先し、迅速に対応願いたい。 令和4年度からの統合を受け、生徒がスムーズに学校生活を送れるように、施設や設備を充実していただきたい。